



KMA

Kuma  
Museum of  
Art

町立久万美術館  
学芸員 本田李璃子



久万高原町について

久万高原町について

人口：約6,500人

面積：約583km<sup>2</sup>（県内最大）

主な産業：林業（土地の約 8 ～ 9 割が杉の人工林）

高知県との県境に位置し、西日本最高峰の石鎚山（1,982m）の麓にある山間の町。  
町立久万美術館は、町の中心部から少し離れた、木々に囲まれた場所に位置する。  
松山市から車で約1時間。

町立久万美術館について



KMA

Kuma  
Museum of  
Art





【ASMR】『植林さん』 KUMA MUSEUM OF ART  
Present, a CHIEKO YAMAUCHI Animated film.

【パペットアニメーション】

コロナ禍を機に、美術館に来館できない方にも  
館の雰囲気味わっていただけるように制作したPR動画。

展示室やロビー、中庭など、館内外の様子を  
オリジナルキャラクターと共に紹介している。



YouTubeにて動画を公開中。  
約1分×4本／音あり





# 久万美術館オリジナルキャラクター 植林さん

杉の植林で栄えた久万高原町。  
その森の中にある木造の「町立久万美術館」に住む、  
杉の木のかわいい妖怪。

制作：山内知江子  
(美術家・アニメーション作家・デザイナー)

全国の博物館・美術館の  
キャラクター日本一を決める  
「ミュージアムキャラクターアワード  
2026」に初参加中！

応援よろしくお願いします！





町立久万美術館 外観  
木造平屋建て



町立久万美術館 展示室  
町内産のスギ、ヒノキを使用



町立久万美術館 展示室・吹き抜け天井



町立久万美術館 ロビー



町立久万美術館 中庭  
多和圭三《景色ーレベル》2010年（2024年再構成）



町立久万美術館 中庭・積雪

久万美術館の成り立ち

# 井部 栄治 Yoshiharu IBE

(1909～1987)

実業家、政治家として町の発展に尽力した人物。  
熱心な美術品の蒐集家でもあった。

井部氏が蒐集した319点の作品の寄贈を町が受ける形で、  
1989年に町立久万美術館が開館した。

以後、「新たな価値の創造」を理念に、  
当館は活動が続けている。



収蔵品・作品収集について

井部栄治氏から寄贈を受けた作品は、大きく分けて3つ



### ①大正～昭和初期を核とした日本の近代洋画

村山槐多《裸婦》1915-16年



### ②伊予の画人、文人による日本画や書

三輪田米山《思無邪》明治後期



### ③砥部焼を含む、伊予の国焼き

五松斎窯《染付四君子文竹つまみ水差し》明治中期

これらのコレクションを基盤に、  
「新たな価値の創造」を理念としながら、  
作品収集や展覧会の実施を続けている。

久万美メッセ「流動」

## 久万美メッセとは

愛媛県ゆかり、または県内で活動する現代美術の作家を取り上げる展覧会。

昨年度は町外にある生活介護事業所「さんかくやま」と協力し、「福祉とアート」をテーマにした展示を行った。



2025年度久万美メッセ「のぼって おりて またのぼる アートと福祉のはざままで」

# 流動

ryudo

2026 KUMABI Messe

2026年度久万美メッセ

2026  
04  
26  
[sun]

09  
03  
[thu]

町立久万美術館 [主催]町立久万美術館、久万高原町

[住所]〒791-1205 愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2番耕地1442-7  
[開催時間]9:30～17:00(入館は16:30まで) [休館日]月曜日(ただし5月4日は開館)、5月7日(木)、5月8日(金)、8月12日(水)  
[観覧料]一般500(400)円、高大生400(320)円、小中生300(240)円  
※( )内は20名以上の団体料金。※高齢者(65歳以上)の方は半額。※障害者手帳(身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳)をお持ちの方とその付き添い者(1名)は無料。

[出品作家] 屋宜久美子  
[参加メンバー]  
林 桜子 / 宇治郷 もも / 武田 京子 / 高橋 航太 / 渡邊 涼香 / 前田 清葉 / 榎 美晴 / 繁光 琉梧 / 竹中 瑞希 / 河野 亜美 / 勝間田 亜海 / 平井 晴樹 / 松本 紗絵子 / 高橋 花歩

KMA Kuma Museum of Art  
町立久万美術館

屋宜久美子 製作風景 2023年 撮影:井川沙織

## テーマ：教育とアート

時代の変化により、教育とアートの役割も変化している。正解のない問いに向き合うため、屋宜久美子さんに声をかけた。

水をテーマとして制作する屋宜さんの作品と、美術館が抱える課題との接点から「流動」というテーマが生まれた。

## 本展における「流動」とは

価値や表現が固定されたものとして存在するのではなく、人や社会、環境との関係のなかで変化し続ける状態を指す。

ただし、流動することは、軸がないということではない。軸を持ちながら、状況に応じて変化していくことである。

「流動」は、屋宜さんの作品を出発点としながら、現在の久万美術館自身のあり方を考えるための言葉でもある。

